

新潟市との一体的実施

平成26年1月20日事業開始

市民に密着した地域の総合的な行政機関である区役所に、国が行う職業相談・紹介等と情報提供の窓口（「ハローワークコーナー」）を設置し、生活保護受給者等の生活困窮者の自立に向けた就労支援を実施

新潟市

- ・ 生活困窮者等への福祉サービスの提供
- ・ 国の就労支援が必要な生活困窮者等の窓口への誘導

国

- 生活困窮者等への就労支援
- ・ 職業紹介・職業相談の実施
- ・ 各種情報提供

① 事業内容

- ・ 生活困窮者等への福祉サービスの提供、各種情報提供等
- ・ 職業相談、職業紹介、求人情報等の提供、就職支援ナビゲーターによる支援等

② 協定・事業計画

- ・ 新潟市長と新潟労働局長の間で協定（*）を締結
- ・ 数値目標を盛り込んだ事業計画を策定

* 協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定。

③ 運営協議会

- ・ 新潟市、新潟労働局、ハローワーク新潟で構成する運営協議会を設置。



「ハローワークコーナー」において、市が行う生活困窮者等への福祉サービスの提供、およびハローワークが行う職業相談・紹介等を一体的に実施することにより、就労支援と生活支援をワンストップで提供。

これにより地域の求職者等の生活の安定、再就職を実現。

(1) 実施体制

市

- ・中央区役所職員
(福祉担当)

国

- ・職業相談員2名を新たに
配置
- ・求人情報提供端末2台、
職業紹介端末2台を配置

(2) 事業目標と取組状況(26年度)

	事業目標	取組状況(26年5月末時点)
生活保護受給者等 就労自立促進事業 支援開始者数	180人以上	14人
	(参考)25年度目標(26年1月～26年3月) 23人以上	(参考)25年度実績(26年1月～26年3月) 16人
就職決定者数	90人以上	7人
	(参考)25年度目標(26年1月～26年3月) 12人以上	(参考)25年度目標(26年1月～26年3月) 7人

一体的実施事業就職成功事例

女性：60代
希望勤務地：新潟市内
希望職種：調理補助兼食器洗い

男性：50代
希望勤務地：新潟市内
希望職種：施設警備・倉庫作業など

①ハローワークコーナー利用の理由
長年経営していた小料理屋も客足減少につき
廃業、生活保護に至る。

①ハローワークコーナー利用の理由
家業倒産後、派遣で繋ぐが失職し生活保護受給。
HWの利用は初めて、生保事業支援対象となる。

②抱える課題
夜の接客の仕事が長く、自営であったことから、
人に使われる仕事になじむか不安である。

②抱える課題
家業倒産・離婚・失職4回、自信を失い、生
きるよりどこを見失う。

③支援内容・ポイント・経過
来所時より早期就労意欲が強く、初回に求職
希望条件を聞き取り、電話での情報提供を提案、
すぐに行動に移した。
応募書類、面接指導をきめ細かに行った。

③支援内容・ポイント・経過
自信を取り戻す事が先決と考え、傾聴を重ね、
活動のノウハウ（応募書類添削・志望動機・面
接対策）を伝え、就労のイメージを膨らませる
事で、初めて仕事に挑戦するまでに至った。

④結果
セシモニーホールの調理補助兼食器洗いの職
種に採用が決定。

④結果
保安警備員（正社員：賞与あり）4/1採用。
商業施設内各種防犯措置業務：主に万引き防止。
*トライアル雇用 *支援機関3ヶ月半

⑤就職支援ナビゲーターの所感
当初より就労意欲が強く、生活保護の期間が
浅いことから早期に就労することが必要と考え
行動した。ケースワーカーとも協力して支援し
たことが好結果に結びついたと考えられる。

⑤就職支援ナビゲーターの所感
初回面談では、かなり気落ちした様子あり。
面談を重ねる中で、人柄の良さ・真面目な性
格から必ず「このままではいけない」と気付き
に至ると信じ粘りよく支援した。